

●精神保健福祉と教育の連携

県精神保健福祉センターが、調査研究事業報告書「思春期の子ども心の健康問題に関する取組み—教育関係機関との連携のための試み」を作成した。報告書では、同センターが行った支援活動として、保護者の精神疾患により登校が難しい子どもの事例のほか、行政・社協・中学校が協働した啓発事業等を紹介。学齢期は子どもに関わる関係者が多い時期であり、卒業後の支援を視野に入れつつ、この機会を逃さず連携を進める大切さなどをまとめている。

●生活保護受給者の支援へ

4月9日の第3回国家戦略会議で、厚労省は「生活支援戦略(仮称)」を、今秋をめどに策定する方針を示した。生活保護受給者の就労収入を保護費から差し引くのではなく、一部を積み立てる制度の導入や、「パーソナル・サポート・サービス」【関連記事4面】の法制化等の検討を進めていく。

●県 高齢者の見守り拠点に助成

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域での包括的・継続的な支え合いを目指し、県保健福祉局が支援策を打ち出した。高齢者の孤立防止・見守り拠点として、市町村が地域包括支援センターの支所(ランチ・サブセンター・連絡所)を設置する場合、1カ所あたり100万円を上限に設備整備費を助成するなど、同センターの機能強化をねらいとしている。

知ってほしい思春期の「心の病」

—(N)じんかれん思春期セミナーの取り組みから

「心の病」と言われる精神疾患について、特に統合失調症は10～20歳代にかけて発症しやすく、早期治療がその後の人生に大きな影響を及ぼすといわれています。

そこで、(N)じんかれん(旧称.. 神奈川県精神障害者家族会連合会)は昨年度、県立高校PTA連合会など、中学校・高校等と連携し、「知ってほしい『こころの病』」をテーマに、県内9カ所で思春期

セミナーを開催しました。

セミナーには思春期にある子ども親や福祉・教育関係者など、延べ800名を超える参加があり、精神科医の講話や家族の体験談から、思春期の発達段階の心の変化や、この時期に発症しやすい心の病、早期発見の大切さや周囲の適切な対応等について学びました。

参加者からは「専門家からの一方的な講義に終わらない雰囲気があり、安心感を得ることができた」「今後、教育現場でも生かしていきたい」「たくさんの人にこのセミナーを聞いてもらいたい」など

の感想が寄せられました。

(N)じんかれん理事長の堤年春さんは、教員やPTAなど、思春期を支える関係機関とのさらなる連携に向け、「関係者も悩みながら、子どもたちの心に向き合っていることが確認できた。家族会の強みを生かし、より参加者の希望に沿ったセミナーを企画していきたい」と意気込みを語っています。

◆(N)じんかれん

☎ 045-821-8796

FAX 045-821-8469

URL <http://www.5oocn.jp/~jinkaren/>

(企画調整・情報提供担当)

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 岡本誠一郎

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

一般社団法人
神奈川県福祉研究会
福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかん印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1588
<http://www.kki.co.jp/>